

産直港湾「志布志港」の方向性

港湾計画見直し検討

国から5月に産直港湾に認定を受けた志布志港の方向性について21日、県議会で議論が交わされた。安原達土木部長は「2023年度からおおむね20〜30年後を見据えた長期構想の策定に着手。同構

想で示される方向性を踏まえ港湾計画の見直しを検討する」と答弁。また、新若浜地区の多目的上屋に冷凍・冷蔵施設の整備等を実施することとも明言した。郷

原拓男議員（自民党、鹿屋市・垂水市区）の

交通ネットワークの進展が見られ、16年度から国や県、志布志市による勉強会が始まった。

その後、21年度からは港湾利用者を加え課題等について意見交換を行い、船舶の大型化やモーダルシフトの進展、原木の輸出货量増大等に対応する新たな岸壁やふ頭再編、にぎわいの創出などさまざま

な意見が出た。このため、23年度からは学識経験者や地元関係者、行政機関で構成する検討委員会を設置。おおむね20〜30年

後の総合的な港湾空間の形成と在り方を取りまとめる長期構想の策定に着手した。

また、背後には農林水産物の一大生産拠点があり、さらなる輸出

促進に向け、輸出額を30年度に21年度比1・7倍となる約36億円とする促進計画が受け入れられ国が産直港湾と認定。

同港には、肉類と魚介類等の冷凍・冷蔵貨物を扱うことができる公共上屋がなく、また

お茶と製材・合板等のドライ貨物を扱う公共上屋の気密性が保持できていないことから、

新たに冷凍・冷蔵施設等を整備する。

冷凍・冷蔵施設を整備

冷凍・冷蔵施設を整備